

へらそう! 風評被害

須賀 愛佳

1. 研究のきっかけ

コミュニティサイエンスアカデミアの第2回の講座で風評被害の資料を見て、震災当時はどのようなことがあったのかくわしく知りたいと思ったから。

2. 研究方法

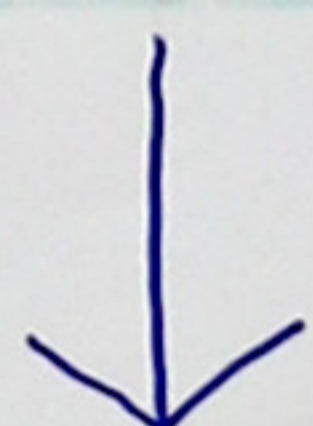
インターネット、第2回でもらった資料

3. 結果

風評被害 → 事実とは異なるうわさやデマ、不正確な情報が広まることによって、本来受けるべきでない経済的・社会的な不利益や損害を被る事。

風評被害の例

- 福島県から来たものには放射性物質が付いているかもしれないから手にしない。
- 福島県に行ったりものを食べるとガンになる。など



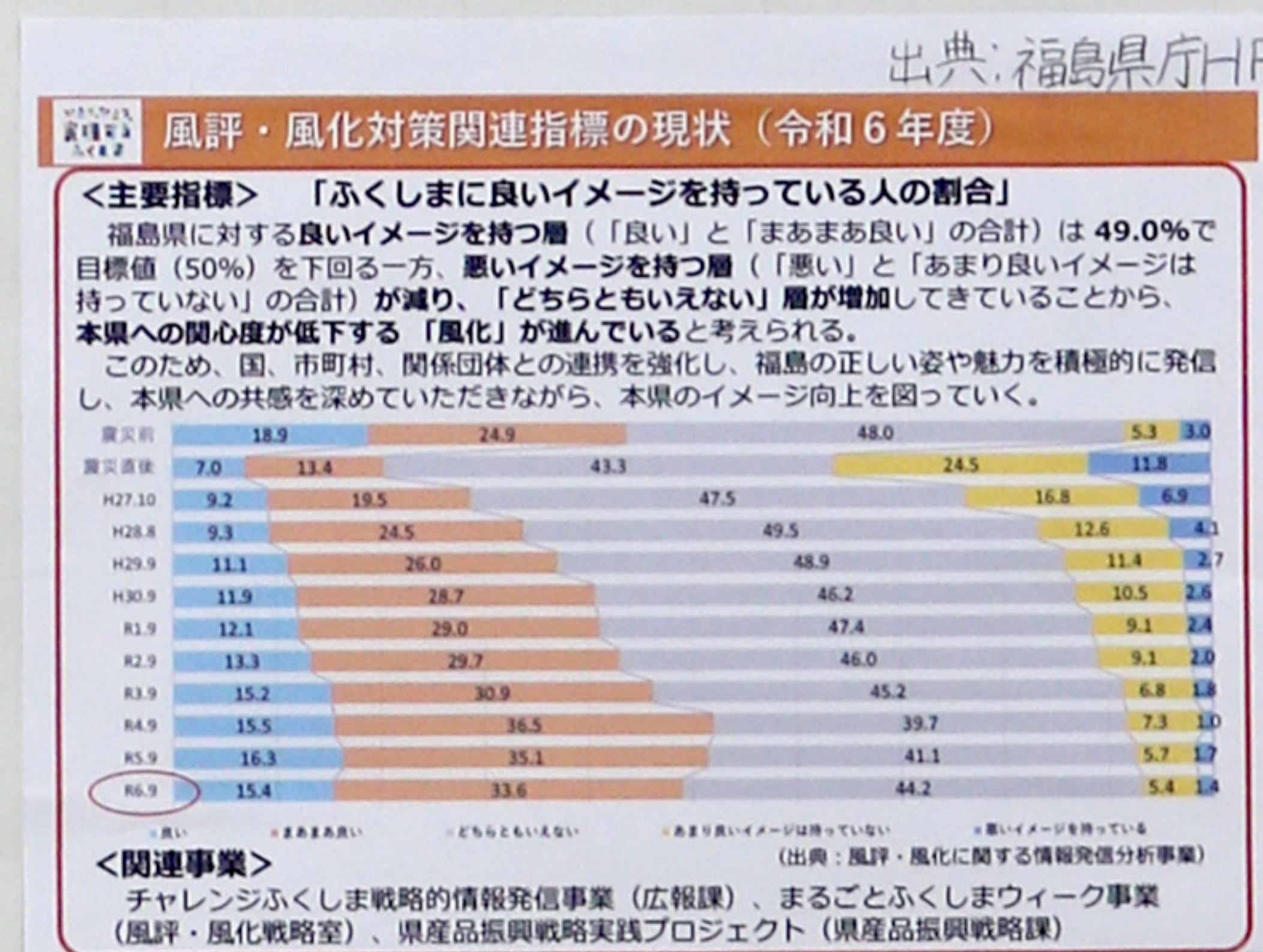
県産の食べ物の価格が他県より下がる。
県産の食べ物の輸入をたくさんの国が規制する。

福島県のイメージに関するアンケート

→ 毎年「どちらとも言えない」が一番多く、記憶を忘れさられてしまふ「風化」が進んでいる。

福島県の取り組み

- 食べ物の検査 → 安全性を証明
- ホープツーリズム



4. 考察・まとめ

震災後、福島県は長い間、風評被害に苦しんでいたけれど、「福島は負けない」と思い、あきらめずに努力してきた人々のおかげで、風評被害は回復しつつあり、今の福島県があると思った。

しかし、それと同時に「風化」が進んでおり、どう対処するか課題となっている。

私は、一人ひとりが正しい情報なのかを判断することで、風評被害をへらせるのではないかと思った。